

日本を支える

KANSAIモノづくり企業

135

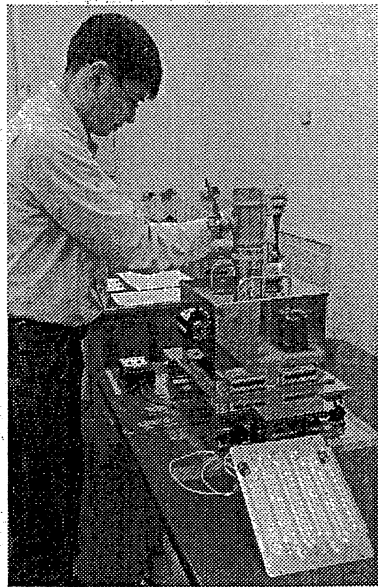
セン特殊光源は、紫外線(UV)を光源に用いた多様な装置を展開する装置メーカー。光源となるUVランプを自社生産し、それを用いた「表面処理装置」「硬化乾燥装置」「水処理装置」「殺菌・脱臭装置」など多様な装置を展開する。

の表面処理で利用されている。もともとはヘリウムとネオンの混合ガスや、二酸化炭素といったガスを

用いたガスレーザー装置メーカーとして1965年に創業した。電機メーカーからの依頼でUVを発生する「低圧水銀ランプ」を73年に開発したのをきっかけに、UV事業に進出。菊池清社長は「UVは殺菌、脱臭、樹脂硬化、表面改質・洗浄など用途が多く、とても可能性を感じた」と、UV関連装置の開発に注力し始めたきっかけを振り返る。それ以来「紫外線をひたすら追いかけて来た」と笑顔をみせる。

セン特殊光源

脂硬化、表面改質・洗浄など用途が多く、とても可能性を感じた」と、UV関連装置の開発に注力し始めたきっかけを振り返る。それ以来「紫外線をひたすら追いかけて来た」と笑顔をみせる。開発型企業として、先端技術の実用化に取り組んできた。この経験から



手作業で生産したランプは、本工場で装置に組み付けられる

UV関連装置海外へ拡販

「新技术を事業化するに はタイミングが大切」と、実感を含めて話す。先端技術を製品化して来たため、顧客のニーズとマッチしないことや、理解されにくいことも多かった。現在はUVオゾン表面処理技術の需要が高

まっており、「技術と時代がマッチした」と、手応えを語る。「まさに今必要とされている技術で、顧客からの注目度が高い」と表現するUVオゾン表面処理技術は、液晶テレビ部品やタッチパネル部品の表面処理技術の需要が高まっている。海外への拡販に力を入れている。英語と中国語でもホームページを設けるなど、インターネットを活用して海外にも積極的に装置を販売。約7億円の年商の約3割を海外売り上げが占める。「ネットの普及で中小企業でも世界に発信できる良い時代」と笑い、前向きに海外展開を進める。

「新技术を事業化するに はタイミングが大切」と、実感を含めて話す。先端技術を製品化して来たため、顧客のニーズとマッチしないことや、理解されにくいことも多かった。現在はUVオゾン表面処理技術の需要が高まっている。海外への拡販に力を入れている。英語と中国語でもホームページを設けるなど、インターネットを活用して海外にも積極的に装置を販売。約7億円の年商の約3割を海外売り上げが占める。「ネットの普及で中小企業でも世界に発信できる良い時代」と笑い、前向きに海外展開を進める。

社内での組立工場で行う。装置は基本的に受注生産のため、ランプ生産はほとんど手作業だ。完成したランプは一品一品光の強度や電気定格を確認し、品質管理を行っている。ランプ生産では「シンプルな構造だから」

西日本

(火曜日に掲載)